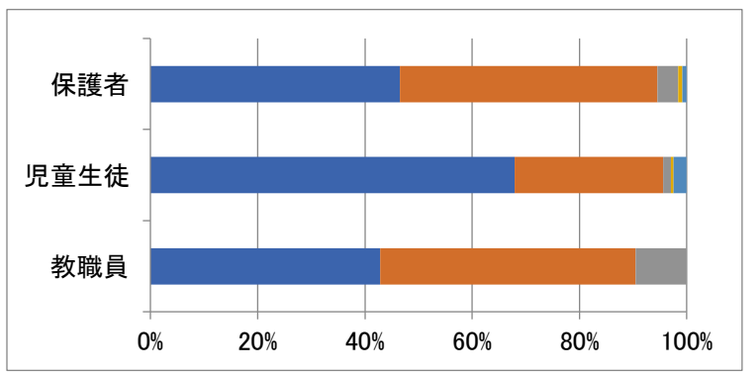
令和７年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

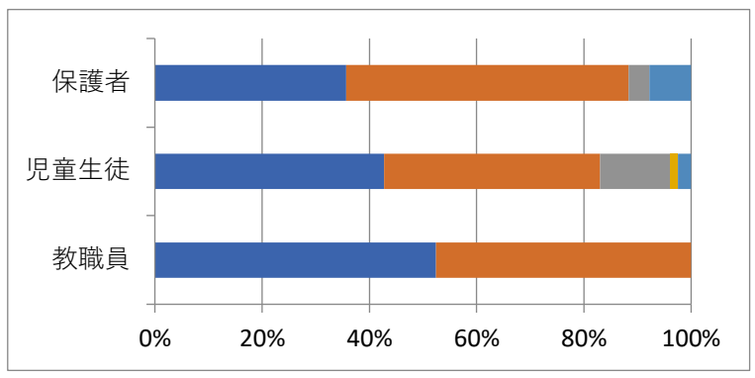
１ 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２ 自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



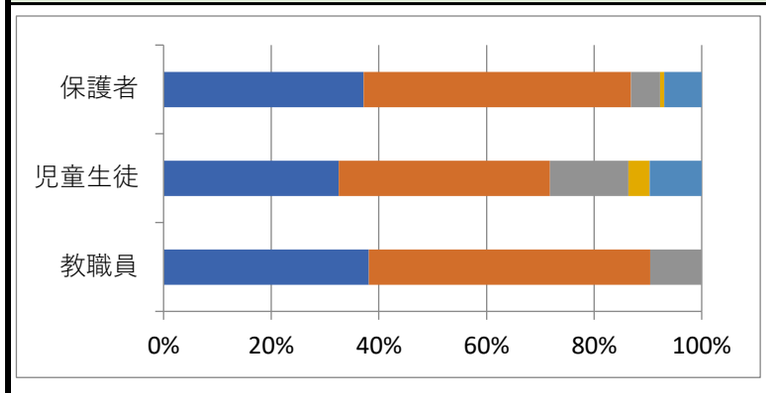
考察

「1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」の項目では、保護者・児童・教職員ともに肯定的な評価が90％を超えている。今後も、継続して人権教育・道徳教育・健康教育の充実を図っていく。「2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」の項目では、保護者・教職員に比べ、児童の評価が低い。課題設定や振り返りの工夫等を通して、児童が自分の学びを実感できる授業づくりを進めていく必要がある。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３ 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



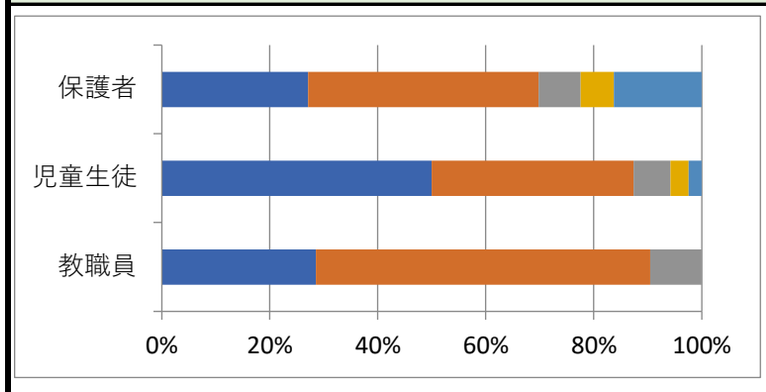
考察

「3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」の項目では、昨年度より児童の肯定的な評価が６％、保護者の肯定的な評価が５％高くなっている。児童会活動を中心として、児童の考えを反映させた活動の場を計画的に設定し実践してきた成果と考えられる。しかし、保護者・教職員と比べると、児童の評価は低い。今後は、より積極的に活動の場を設定し、児童が主体的に参画しながら学校生活等の向上を実感できる取組を進めていく必要がある。

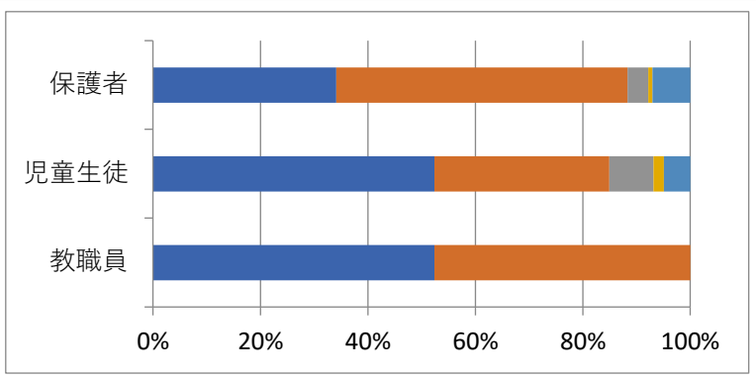
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



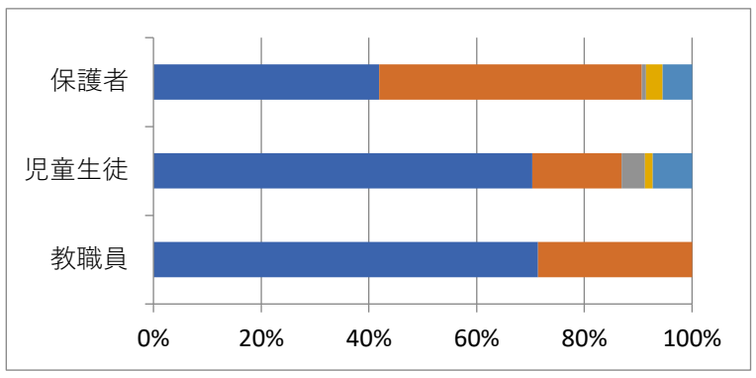
考察

「４５ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の項目では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりする授業において、児童の肯定的な評価が昨年度より９％高くなっている。今後も、児童一人一人の学びに応じた学習活動の工夫改善を図っていくことが大切である。対話については、昨年度とほぼ同等の評価であった。授業改善を中心として、対話の在り方を学校全体で共有し実践していく必要がある。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

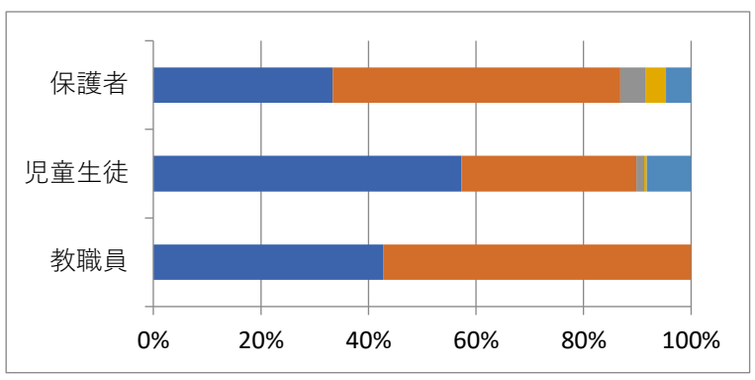
６ 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７ インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



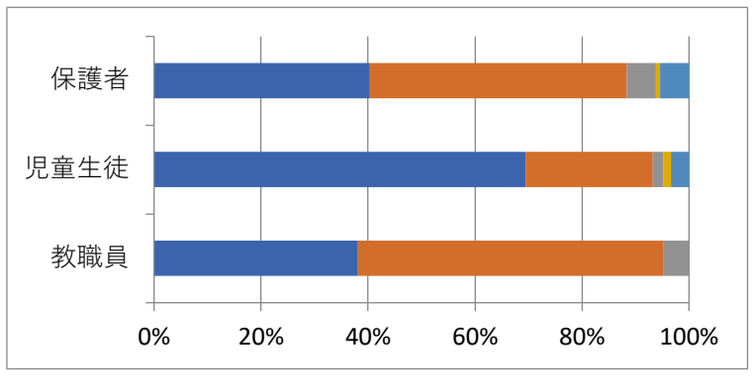
考察

「6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」の項目では保護者の肯定的な評価が６％、「7 インクルーシブ教育の推進」の項目では児童の肯定的な評価が８％昨年度より高くなっている。今後も、保護者・児童に寄り添った対応を心がけるとともに、様々な教育活動において、お互いの思いを受け止め、自己開示と他者受容の往還のある対話を実現していくことが重要である。

（3）最適な教育環境の整備

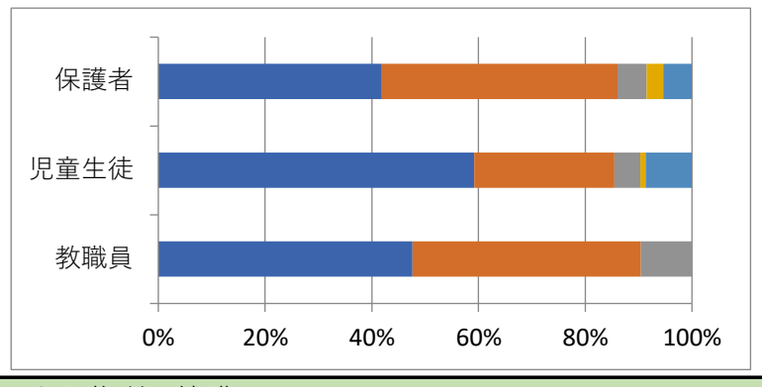
8 安全・安心な学校づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

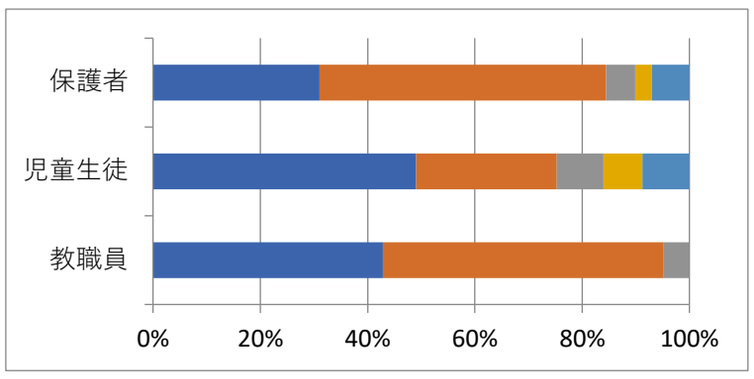


「8 安全・安心な学校づくりの推進」の項目では、保護者・児童・教職員ともに肯定的な評価が90％を超えている。今後も継続して、安全教育の充実を図っていく。
「9 地域や家庭と連携した教育環境の整備」の項目では、児童・教職員の肯定的な評価が昨年度よりやや低くなっている。地域・家庭は、学校教育に大変協力的である。より連携していくことができるよう教育環境を整備していく。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。



「10 こどもの最善の利益を守る環境づくり」の項目では、保護者の肯定的な評価が昨年度より4％高くなっており、外部機関も含め、学校全体で組織的な対応を進めてきた一定の成果がうかがえる。一方で、児童の肯定的な評価は、保護者・教職員と比べると低くなっている。児童が意見を出しやすく、実感をもって反映されるような仕組みを整えていく必要がある。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て

○児童の確かな学力を育むために、自己開示と他者受容の往還による対話を中心とした聴き合う授業を学校全体で進めてきた。結果として、他者との協働の充実へとつながり、「学校では、それぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っている」と実感する児童が増えてきている。次年度も、児童同士の聴き合う関係を構築しながら、学校教育目標の実現を目指していく。
○「社会の持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」においては、児童の肯定的な評価が昨年度より高くなったものの、80％を切っている。今後も、学校行事、児童会活動、学級活動を中心に児童の考えを反映できるようにし、学校生活等がよりよくなったと実感する場を積極的に設定することで、主体的に考え行動する児童の育成を目指していく。

小　中　学　校　関　係　者　評　価

○子ども同士すぐに相談できる机の配置といった学習環境の工夫、お互いの思いを受け止める姿勢の醸成により、安心して自分の考えを伝えられる雰囲気が学校全体にある。その結果、自分の言葉で自分の思いを表現する子どもが増えてきていると感じる。
○子ども達は授業に意欲的に参加しており、学ぶことを楽しんでいる様子が随所に見られる。先生方の笑顔が子どもたちの笑顔につながる。今後も、先生方が生き生きと前向きに教育活動を進めていけるようお願いしたい。